

身体の移動が作り出す空間——個別避難訓練を通して The Meaning of Body Movement in Single-person Drill

○孫英英・谷澤亮也・矢守克也

○Yingying SUN, Ryoya TANISAWA, Katsuya YAMORI

Two basic topics of tsunami reduction, the “evacuation” and “time”, require individual residents playing actively, especially after the report of Nankai Trough Earthquake released by the Cabinet office. In this study, we talk about fieldworks of single-person drill in Okitsu community in Shimanto Town, Kochi Prefecture. The single-person drill targets at a single evacuee, who will start tsunami evacuation from where he/she is, with a GPS equipment, to walk quickly to a high place. Comparing to the traditional tsunami evacuation, the single-person drill has three features, which are 1) making residents playing actively, 2) involving residents who do not interested in disaster reduction, 3) proposing implementable strategies by showing the enemy and the human behavior on one screen.

1. はじめに

津波防災では住民側にとって、「逃げる」（逃げれば助かり、逃げなければ犠牲になる）と「時間」（津波到達時間や避難所要時間）の2つが中心課題であり、個人による能動性の発揮が強く求められている。内閣府による南海トラフ巨大地震の被害想定（第一次報告）の公表後、静岡県や高知県など、衝撃的な想定がなされている地域において、これまでの津波防災対策を促進し、「逃げる」と「時間」の2つの課題を克服していくことが、住民や行政、専門家につきつけられた。

本研究は、最大25.4メートルの津波が想定され、地震発生後わずか15分で津波が防潮堤を乗り越えると予想される高知県四万十町興津地区をフィールドとして、独自の津波防災対策「個別訓練」についてまとめたものである。ここでは、従来の津波避難訓練と比較しながら、住民の身体の移動によって作り出された空間について検討する。なお、空間とは小さな「風景」や「場」から、杉万（2006）が提唱している「集合流」など広範囲にわたる実践のあり方を指す。

2. 個別訓練

個別訓練とは、個別の住民を対象に、現時点の滞在場所（自宅や職場、公園など）から高台など自分が逃げようと思う避難場所まで、時計測機能付きGPSロガーをつけて、実際に逃げてみるものである。学校の防災教育と結びつくときには、ビデオ撮影係や、メモ係、インタビュー係、声かけ係などの役割を子どもに担ってもらう。

これまで、興津地区唯一の小学校の子どもたちは、8名の住民を対象に個別訓練を実施した。また、筆者は独自で21名の住民、および小・中学校の全校生徒の46名を対象に個別訓練を行ってきた。個別訓練の結果を訓練参加者にフィードバックするため、津波専門家の協力を得て、津波シミュレーションとGPSロガーの記録をGISマップに重ね合わせ、「動画カルテ」を作る。こうして、訓練者がどの時点で、どこへ避難することができていたかがはっきりと見て取れる（図1参照）。

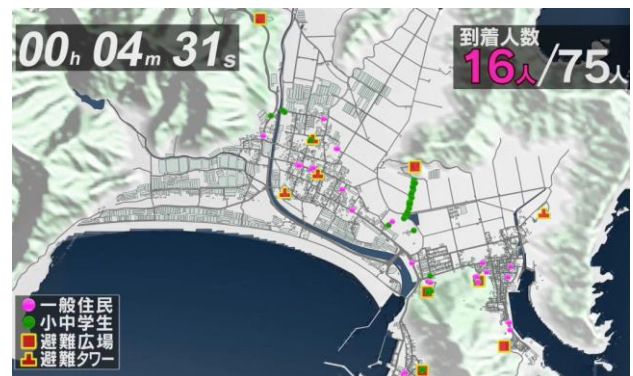


図1 個別訓練の結果

3. 考察

個別訓練は、「逃げる」と「時間」を重要課題とする取り組みであり、従来の津波避難訓練と比較すれば、以下の3点において特色がある。1) 住民個人が主役意識を持ち、訓練に取り組むこと；2) 防災に無関心な住民を、訓練参加者による紹介で訓練に関わること；3) 「敵」（津波）と「己」（人間）が同じ画面上に表現され、より現実性のある防災対策を提案すること、などである。